

登録コード	FS102500	開講年度	2026			
授業題目	MOT特論				担当教員	富川 真佐夫
英文授業名	Advanced Management of Technology				副担当	
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室	繊維 2 4 番講義室		授業形態	講義	備考	
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標	【ディプロマ・ポリシー】				⇔	【授業の達成目標】
	26FS加・繊維学，23FS加					
	【研究科共通】人類，社会の平和的・持続的發展のために，研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観				⇔	社会情勢への関心と多様な人材との議論ができることを目指す
	23FS加					
	【研究科共通】環境調和社会，知識基盤社会を多様に支える高度な専門知識と実践的技術力				⇔	グローバルな地政学的情勢の把握、それからフィードバックされる知識への関心の養成を目指す
	【研究科共通】さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力				⇔	現状の把握能力、課題の列挙それに対応した情報収集と分析による商品開発のアイデア創出能力
	【研究科共通】深い専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力				⇔	自分の知識と説明対象者の立場に立った説明の仕方を考える手法を身に着ける
(2)授業の概要	製品開発は社会情勢、市場、競合、ステークホルダーとの関係、アイディアの創出、独自技術開発など、多岐にわたる考え方によって成り立っている。 この授業では、会社の経営方針のもと新しい技術で、新しいモノ（商品や製品）を作り出すという観点に立ち、モノ創作につながっていく事項について解説する。また、MOTは経営と密接な関係があるので経営についても解説する。企業において研究開発経験のある者が，その実務経験を活かしてMOTについて講義を行う。現職の村上泰治氏をはじめ数名のゲストスピーカーを招聘し，実務経験を活かした「企業戦略」，「MOTの実際の活用例」に関する講義を通じて，社会的視野を広げ，自発的に考える力を養う教育を行う。 学生達には、会社における製品開発担当者という立場で、製品のアイディアの創出、独自技術の開発、コンセプトの設定、製品化について、模擬的に新製品開発を実施してもらう。また、将来技術動向からどのような商品や技術が必要になるか考え、レポートで報告してもらう。講義中の考察、発言を重視する。					
(3)授業計画	講義は集中講義とする。9月10日-11日&9月17日-18日の4日間で実施する。 講義の順序は次の通りであるが、講義の進展具合、外部講師の都合により順番が変更される場合がある。 第 1回目： 授業の概要 第 2回目： ビジネスの基本を知るために 第 3回目： マネージメントの基本 第 4回目： いい企業・組織とは 討議 第 5回目： イノベーションとは何か？ 第 6回目： アイディアの創出深化と討論 第 7回目： 企業経営の事例（レゾナック・村上様） 第 8回目： 企業経営の事例（レゾナック・村上様） 第 9回目： 企業における製品開発（東レ・増田様） 第10回目： 企業における製品開発（東レ・増田様） 第11回目： 製品開発ツール（実験計画法） 第12回目： 実習 第13回目： 実習と発表 第14回目： 製品開発のアイデア レポート 第15回目： 先の読めない時代の企業と働き方 第16目回： レポート作成 （締め切り：授業終了2週間後）					
(4)成績評価の方法	レポート（30％）プレゼンテーション（30％）最終レポート（40％）よく考えているかを重視する。講義中の質問、発言にも注目する。					
(5)成績評価の基準	合格水準（＝授業の達成目標への達成度において許容範囲の水準：自分で課題を見つけ、課題に対する分析、情報収集、さらなる分析と解決策の提案、コミュニケーションによる課題の説明）から見て、一連のプロセスが理解できて一応の提案ができていれば『合格水準にある』／情報収集や分析法にアイデアがみられる場合『やや上にある』／情報収集や分析法にアイデアがみられる場合に加えて独自の解決案ができている場合『かなり上にある』／情報収集や分析法にアイデアがみられ、独自の解決案ができている場合に加えて専門外の人への説明能力がある場合『卓越している』					
(6)事前事後学習の内容	コト、モノ創作につながっていく事項について考えてもらうので、事前にグローバルな社会情勢、技術の進展について関心をもち情報を入手しておくこと					
(7)履修上の注意	コト、モノ創作につながっていく事項について考えてもらうので、事前にアイデアの創出法やビジネスの動向注目しておくこと。					
(8)質問,相談への対応	メールにて対応					
(9)授業の形式	講義だけでなく考察する訓練を行う。講義、議論、プレゼンテーションで考察を促す。					
(10)学生へのメッセージ	新しい技術で新しいモノ（商品や製品）コト（体験や学ぶビジネス）を市場に対して創出していくための商品開発、企業協業、特許戦略、製造・生産、産学連携、商品化に対して絶えず興味を持ってほしい。会社の経営から会社や組織をみる眼を養うことにより、将来設計に役立ててもらいたい。					

【教科書】	
【参考書】	通勤大学MBA MOT 通勤大学文庫 総合法令 技術者のためのマネージメント入門 日本経済新聞社 ビジネス寓話50選 アスキー新書